

問題 一 『話し手の意味の心理性と公共性』 三木那由他

問一	問二	問三	問四	問五
ア 眺	イ 包括	ウ 繰	エ 履	オ 光景
<p>桜についてのメッセージをきっかけに、恋人とのさらなる共感や交流を深めたいという思いと、相手に対しても同じ理解を期待し、より深い二人の関係を築いていきたいという意味が込められている。</p> <p>人間以外の動物は、本能によって情報を発信し、受け手も機械的に反応するだけだが、人間の場合は、話し手の意味を聞き手が理解し、その役割を交互に入れ替えながら人間関係を深めていくものである。</p> <p>親が子供に発した「雨が降っているよ」は、降雨の事実だけでなく、傘を持って行けという意味もある上に、出かけようとする子供に無言で窓の外を指さすことでも降雨の事実は示せるという事例。</p> <p>一切の言語や身ぶりを介さないわけではないという意味で制限はあるが、表層で意味されている内容に明白な対応を持つものが何もないにもかかわらず、意思疎通ができるというコミュニケーションの不思議さを強調するため。</p>				

(参考文字数)

(90字)

(92字)

(89字)

(102字)

問題 二 「ラッキーカラーは黄」 (『猫を拾いに』所収 新潮文庫) 川上弘美

(参考文字数)

問一	事故後、自身の名前としての実感を失った「さゆり」に対し、名前が醸すイメージによって、気持ちや行動を束縛されたくない気持ち。
問二	自分の名前すら自分である実感を持たないのに、決まった服装のイメージによって他人に性格や行動を一定の型にはめられ、決めつけられたくないから。
問三	十五歳の交通事故後にそれ以前の記憶を失い、「さゆり」という名前に実感がなかったのだが、結婚して阿部姓になったことで、初めて自分が「阿部」であることを実感し、自己認識できたということ。
問四	日常においては社会に適応した上で、事故後、実感を失っている下の名前と呼ばれることだけは堅固に嫌い、潔しとしないという「女の阿部さん」本人だけに通じるこだわり。

(61字)

(69字)

(91字)

(79字)

問題 三 『平中物語』 作者未詳

問四	問三	問二	問一			
			エ	ウ	イ	ア
<p>姫君の恋心を代筆していた女房がよそにいつてしまったため、姫君は平中を恋しく思いながらも、自身に教養がなかったため、字は上手く書けず歌も満足に詠めなかったため、返事をするすべがなくなつたから。</p>	<p>掃き捨てる庭のくずとなつて、今頃は積もつているのでしょいか。 読む人もいない私の手紙は。</p>	<p>身分が高く大切に守られ世話されている姫君なので、人目が多くて手紙の授受が難しい（と現状を理解した）。</p>	エ	ウ	イ	ア
			身分が低くない人	返事ができないのだよ	あれやこれやと言わないで	全く返事がない

問題 四 『漢書』 班固・班昭

問一	ア ために	イ のみ	ウ ゆえん	エ ここにおいて
問二	<p>疏広は、家に黄金の余りがまだいかほどあるかをたびたび尋ね</p>			
問三	<p>疏広に下賜された黄金をもとに、田や家を買って、子孫の財産を増やそうと考えていたのに、その黄金を酒宴などで散財してしまいそうで、あてが外れると考えたから。</p>			
問四	<p>われあにろうはいしてしそんをおもはざらんや</p>			
問五	<p>皇帝より老後を養うために下賜された退職時の黄金を、子孫の蓄財のために使つては、子孫に怠情を招き、人にも恨まれるため、同郷・一族の人々と楽しんで酒宴を開くなどして、共にその恩寵にあずかるためにのみ黄金を使い、余生を送ること。</p>			